

防方代指腫痛、未膿者用、時々傳之則痛止腫消、

〔庖厨備用倭名本草〕青魚八略○中

へリ、俗ノナラハシナリ、

青魚味甘性平毒ナシ、萑白ト同ジク煮テ食スレバ、氣力ヲマシ、脚氣脚弱煩悶ヲ治ス、枕骨、眼睛汁、膽皆各病ヲ治スル功用アリ、合食禁、丹石、胡葵、葵菜此類合食スベカラズ、

〔食物和歌本草〕青魚六

さばの肉脚氣に足のほめきつゝ、まびるゝによし氣力ます也

サバノキモ
鯖膽

鯖のきも赤く目はれていたむ治し熱瘡にぬれ忽にいゆ

〔類聚符宣抄〕三炮瘡事

太政官符、東海、東山、北陸、山陰、山陽、南海等道諸國司、令臥疫之日治身及禁食物等事漆條、

一病愈之後、○中廿日已後若欲喫魚、先能煎炙、然後可食、○中但鯖及阿遲等魚者、雖有乾腊慎不

可食、

天平九年六月廿六日

〔今昔物語〕十二於東大寺行花嚴會語第七

今昔聖武天皇東大寺ヲ造リ給テ、先ヅ開眼供養シ給フニ、○中其ノ日ノ朝、寺ノ前ニ使ヲ遣シテ

令見メ給フニ、一人ノ老翁籬ヲ荷テ來レリ、其籬ニハ鯖ト云魚ヲ入タリ、○中天皇然レバ、コソ、此

レハ夢ノ告有レバ、只者ニハ非リケリト信ジ給テ、此ノ籬ヲ見給ヘバ、正シク鯖ノ入タリト見エ

ツレドモ、花嚴經八十卷ニテ御マス、

〔延喜式〕三十二宴會雜給 大歌立歌、人別、○中大鯖一隻、○中右新嘗會宴食料、依前件

鯖雜載